

参加会議・コース名称
Arctic Frontiers 2019
■ 派遣中の活動と成果
<p>2019年1月21日から25日にかけて開催されたArctic Frontiers 2019に参加した。本会議は、毎年ノルウェーのトロムソで開催され、今回で13回目となる。会議は5日間開催され、前半2日間は7つのメインテーマに対して議論をおこなうPlenaryセッション、後半2日間はScienceセッションがメインでおこなわれた。また、それぞれのセッションの他に会議に関連した話題についてのSideイベント、夜は食事をしながら、参加者同士の交友関係を深めるNetworkingレセプションなどもおこなわれていた。</p> <p>Plenaryセッションでは、ノルウェーの大臣や先住民族の長、各国の大学教員、企業の代表など様々な立場の人が登壇し、気候変動などにより北極圏を取り巻く状況が大きく変化していく中で、政治・経済、教育、民族、海底資源開発、持続可能性などの話題について活発な議論が行われた。議論自体はときおり会場全体に笑いがおこるなど非常に和やかな雰囲気で行われた。</p> <p>Scienceセッションでは、北極圏の生態系のマネジメントについてのセッション「The future of Governance and handling Vulnerability in Arctic Ecosystems」、今話題となっているマイクロプラスチックの起源や生態系への影響についてのセッション「Plastics in the Ocean」、雪氷圏や北極海、陸域-海洋間の相互作用などの研究の現状についてのセッション「State of the Arctic」、それからICTを活用した技術やスマートシティ関連のセッション「A Smart Arctic Future」の5つのセッションがあり、北極圏の大学の学生も多く発表していた。その中で私は、北極圏の生態系の変化に関する発表や、生態系を維持していくためのマネジメントについての発表、北極圏のエネルギー事情と再生エネルギーについての発表を聞いてまわった。普段の業務で携わっている沿岸の生態系や再生エネルギー事業に関係する内容として有意義な情報収集ができた。</p> <p>また、ポスターセッションもおこなわれており、北極の海氷減少に関するものや、北極ダラ等の漁業資源に関するもの、再生エネルギー関係など様々な分野の発表があり、特に衛星画像により氷河の色を判別し、年代を確認する研究は業務でも関係する技術であり、興味深い内容だった。</p> <p>最後に、本派遣により有意義な情報収集ができ、今後の業務の励みとなりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝いたします。</p>
■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動
〔派遣中に会議等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記述してください〕 なし

※図表・写真等を含めて構いません。最大2ページで作成してください。